様式２ｂ

27	大阪府立柴島高等学校	全日制	総合学科	29/4/28～30/3/30

平成２９年度　高等学校における特別支援教育推進のための拠点校事業
実施報告書（成果報告書）（要約）

１　研究開発課題

高校に在籍する発達障がいの特性のある生徒の、自立や社会参加を図るため、通級による指導の対象とする生徒の決定方法、通級による指導の目標設定、指導の内容と評価について研究を行った。

２　研究の概要

（１）高等学校における通級による指導の運営に関する協議会の開催

本研究の遂行にあたり、学識経験者、作業療法士、臨床心理士等の有識者等からなる「高等学校における通級による指導の運営に関する協議会（以下、「協議会」という。）」を設置し、研究開発課題についての専門的見地からの指導助言の機会を設けた。

（２）通級による指導の対象とする生徒の決定方法

協議会において、「通級よる指導を実施にあたり、対象となる生徒の決定や、通級による指導における学習内容の検討の際に、「チェックシート」等のツールを用いることが有効である」との助言をふまえ、「教職員の気づきシート」及び「行動観察等によるアセスメントシート」の２種類の教員支援ツールを作成した。

（３）高校通級版「個別の指導計画」の作成

通級指導が自立活動に相当する指導を実施することとなるため、指導内容が自立活動の６区分のうち、どこに該当するかを整理する欄を設けたよう市区を作成した。

３　研究の目的と仮説等

（１）研究開始時の現状分析と研究の目的

大阪府立高校には､障がいにより配慮を要する生徒が多数在籍しており､各高校では、一人ひとりの障がい特性を把握し、生徒の自立や社会参加に向け、高校段階でどのような指導・支援が必要かについて検討し、実践しているところであるが、平成 30 年度からの高校における通級指導の制度化に向け、通級指導の対象とする生徒の決定方法と、高校通級版の「個別の指導計画」を作成することとした。また、自立活動に相当する特別の指導についても研究することとした。

（２）研究仮説

・高校における自立活動について、教育内容や指導方法等の実践により、通級指導による自立活動の学習プランができる。

・生徒一人ひとりの障がい特性に応じた「個別の指導計画」を作成し、特別の指導を行う

ことにより、生徒が自立し社会参加するために必要な力を育むことができる。

（３）必要となる教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
自立活動に相当する指導（授業名「ライフスキルトレーニング」）	対象生徒の実態把握を実施し、個々の障がい特性に応じた困難の克服・改善を目的とした、自立活動に相当する内容を実施する。	２単位（半期認定）

（４）研究成果の評価方法

〇対象生徒決定手順の評価

・対象生徒の決定に関する指針

〇指導内容に関する評価

・「個別の指導計画」策定指針

・「個別の指導計画」に基づく目標設定や指導内容及び評価の妥当性の検証

４　研究の経過等

（１）取組の内容

〇通級による指導の対象とする生徒の決定方法

協議会での助言をふまえ「教職員の気づきシート」及び「行動観察等によるアセスメントシート」の２種類のシートを作成した。

➢　教職員の気づきシート

通級指導の対象生徒については、すべての教職員の気づきがスタートとなる。そのため、支援教育の専門的知識がなくても、生徒の様子からどのような支援が必要か整理する「教職員の気づきシート」を開発した。

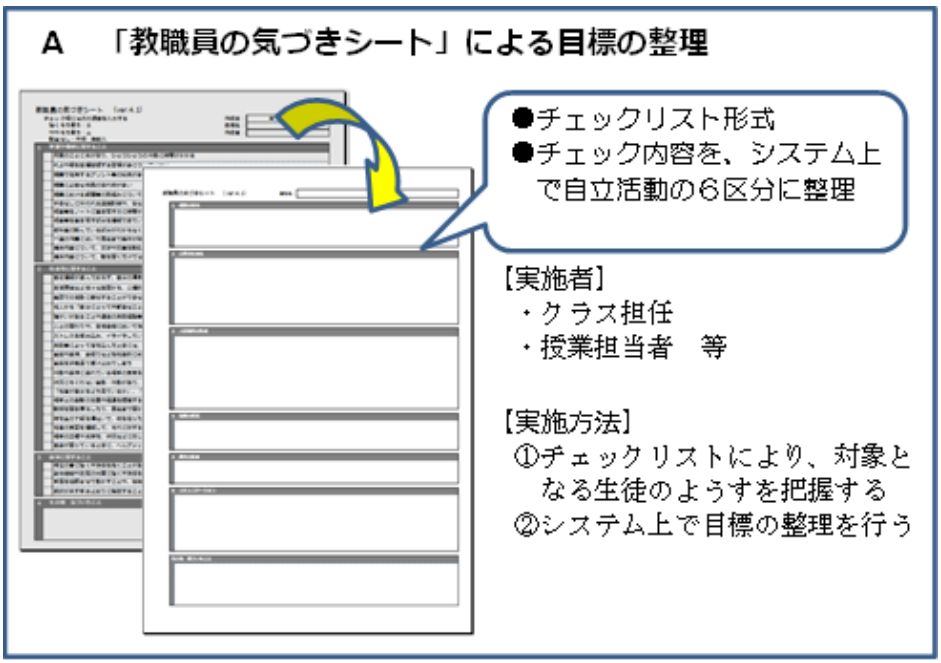
「教職員の気づきシート」は、多くの教職員が活用することを想定し、内容を精選して、質問項目数を絞っている。それぞれの質問項目の内容は、「特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編」を参考に、学校生活での様々な場面を端的に表したものとした。

チェックの方法として、それぞれの項目に対し、アセスメント実施者によって生徒の特性の捉え方に差異があることをふまえ、その特性が顕著な場合には「強くそう思う」として「◎」を、顕著ではないが傾向があると考えられる場合には「ややそう思う」として「△」を入れることとしている。

また、自由記述欄を設け、質問項目以外の気づきも記入できる様式とした。

併せて、教職員の気づきを整理し、指導内容へつなげるために、気づきシートでチェックを入れた項目を自立活動の６区分に分類するためのシートも開発した。これは、チェックした項目が、自立活動の６区分に自動的に分類されることにより、対象生徒の課題や、関連付けて取組むべき内容が見える化され、「個別の指導計画」の作成のためのツールとして有効であることが確認できた。

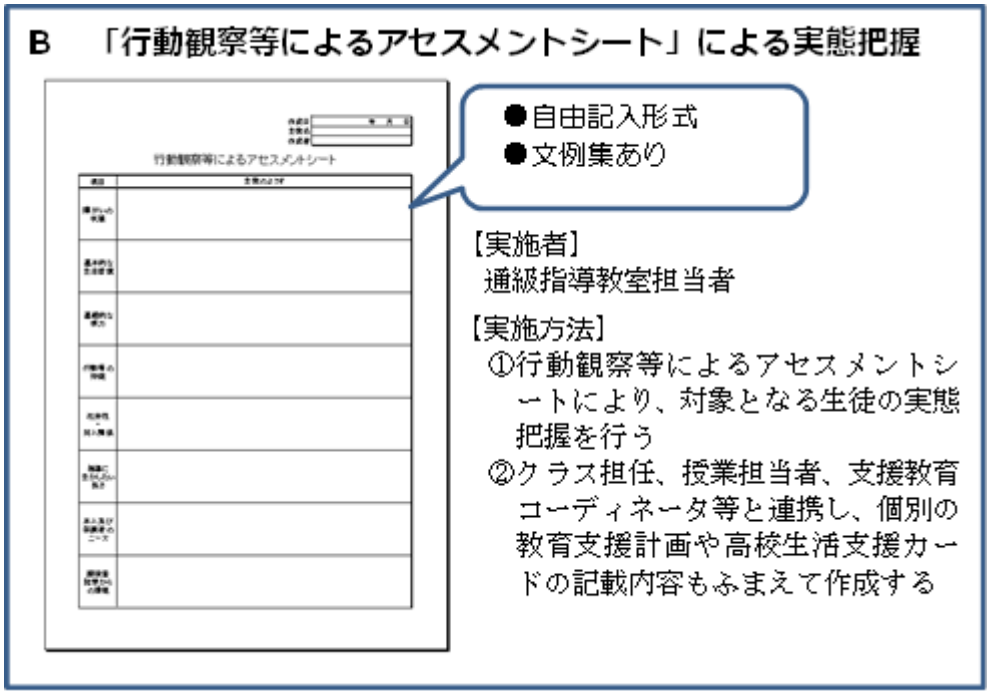
この２種類のシートを活用するにあたりエクセルでマクロを組み、自動化を図った。具体的には、「教職員の気づきシート」で、学習面等の気になる項目を選択したのち、ボタンをクリックすると、自動で自立活動の６区分に分類するシステムとした。



➢　行動観察シート

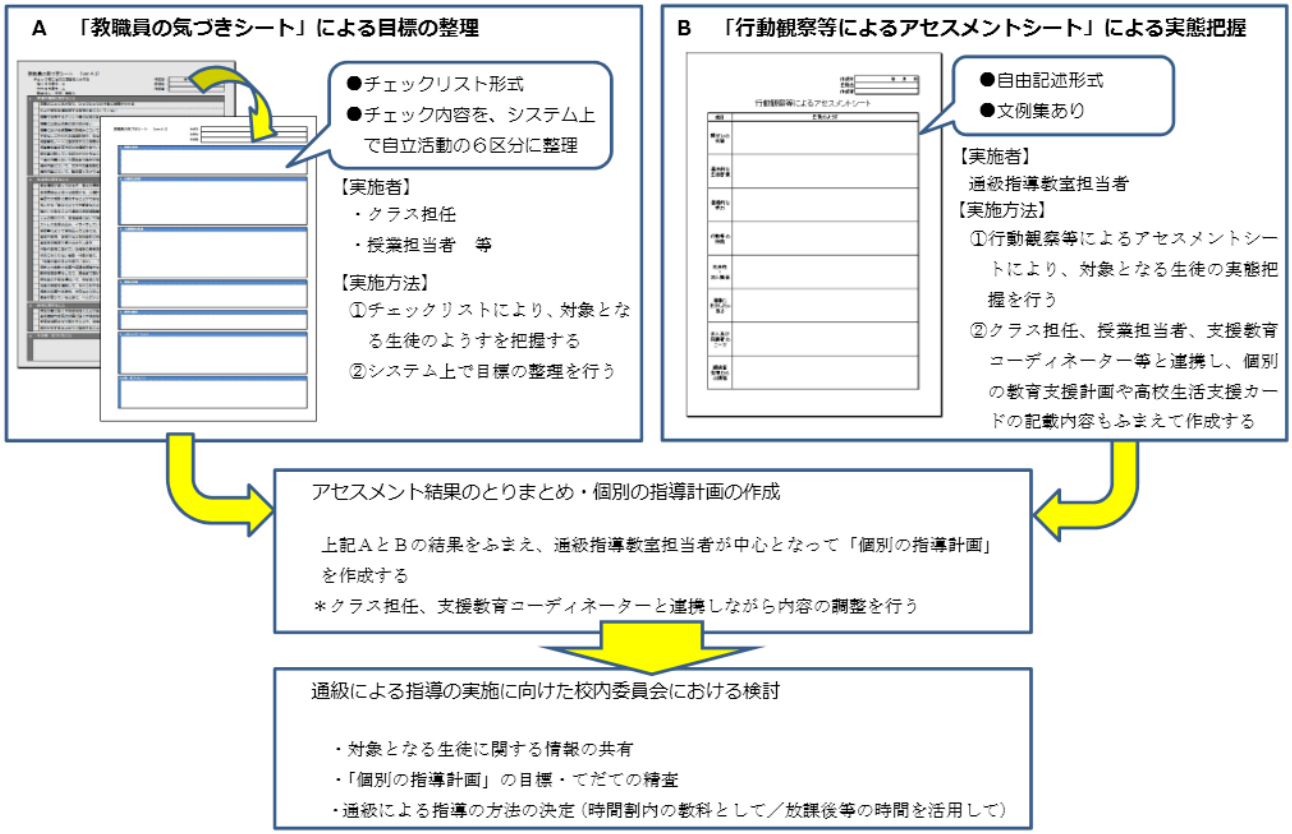
教職員の気づきにより、自立活動の６区分の中で、重点的な項目が浮き出ることになるが、より丁寧な見立てにつなぐためには行動観察が重要である。そのため、通級指導担当者が行動観察に基づき記載するためのシートを開発した。

行動観察の結果は文章で記載することとなるが、参考として活用できる文例集もあわせて作成した。



これら２種類のアセスメントを実施し、通級による指導の対象となる生徒の決定から個別の指導計画の作成に至るまでの流れを以下に示す。

通級による指導の対象となる生徒の決定～個別の指導計画の作成まで



「教職員の気づきシート」及び「行動観察等によるアセスメントシート」により、通級による指導の対象となる生徒の決定について、一定の指標のもとで行うことができるようになった。さらに、通級による指導の実施に至らない生徒であったとしても、学校生活における「困っていること」を見える化することにより、教職員間の情報共有のためのツールとなり、高校における支援教育の推進に寄与するものとなった。

○高校通級版「個別の指導計画」の作成

学校独自の「個別の指導計画」の様式を作成し活用していたところであるが、自立活動の６区分のうち、どこに該当するかを整理する欄を設けた、通級指導のための「個別の指導計画」の様式を新たに作成した。

【高校通級版「個別の指導計画」の様式】

年度　期　個別の指導計画【自立活動】　（①実態把握→②目標設定→③具体的指導内容作成→〈実施〉→④評価）

年　組	生徒氏名（セイトシメイ）		記入者	
			作成日	年　月　日

①実態把握　**《生かしたいよさ（○）　特に改善・克服をめざしたい課題（★）》**

生徒の実態	障がい状況・生活習慣	
	社会性・人間関係・コミュニケーション	
	認知・感覚・学習	
	興味・関心・意欲・情緒	
	運動・動作・作業	
	その他	
進路希望		

②目標設定

長期目標《年間》

1
2

短期目標（指導目標）《学期》

1
2

③具体的な指導内容作成　**《下記「自立活動の内容」より、指導目標達成のために必要な項目を選定して作成》**

	A：健康の保持	B：心理的な安定	C：人間関係の形成	D：環境把握	E：身体の動き	F：コミュニケーション
自立活動の内容	①生活のリズムや生活習慣の形成 ②病気の状態の理解と生活管理 ③身体各部の状態の理解と養護 ④障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤健康状態の維持・改善	①情緒の安定 ②状況の理解と変化への対応 ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	①他者とのかかわりの基礎 ②他者の意図や感情の理解 ③自己の理解と行動の調整 ④集団への参加の基礎	①保有する感覚の活用 ②感覚や認知の特性についての理解と対応 ③感覚の補助及び代行手段の活用 ④感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	①姿勢と運動・動作の基本技能 ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③日常生活に必要な基本動作 ④身体の移動能力 ⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	①コミュニケーションの基礎的能力 ②言語の受容と表出 ③言語の形成と活用 ④コミュニケーション手段の選定と活用 ⑤状況に応じたコミュニケーション

具体的な指導内容（手だて・配慮）	選定した自立活動の項目（記入例：A－①、C－④）

④評価　**《成果・到達点・課題・引継ぎ事項》**

○ 特別の指導の方法と評価方法

対象とした生徒への指導内容は、前述の２種類のシートを活用したアセスメントの結果をふまえ「個別の指導計画」を作成し、そこで策定した短期目標の達成をめざした。また、前述の協議会委員による授業観察からの見立てを反映し、対象生徒の特性に応じた課題設定を行なった。

○指導内容

重点指導項目：障がい理解、コミュニケーション、認知の変化、アサーション
指導方法：実体験を例に取り、ワークシート、ロールプレイなどを中心に実施
留意点：本人の困り感や要望、不安を引き出し、改善方法を考えさせた

○指導時間のパターン化

通級による指導が一方的な教授の時間にならないよう、また、生徒の集中力が持続するよう、毎時の指導時間をパターン化し実施した。

【指導時間の基本タイムテーブル（授業は２コマ連続で実施）】

１コマめ　(50 分)			(10 分)	２コマめ　(50 分)		
(20 分) 聞き取り	(10 分) BT※2	(20 分) 取組み	休憩	(20 分) 取組み	(10 分) BT※2	(20 分) まとめ

※２　ブレイクタイム。運動機能や巧緻性を高める内容を実施

（２）評価に関する取組

○対象生徒の決定に関する指針の作成について

開発した２種類のシートは、研究校でも実証し、有効性を確認した。また、協議会からは、「自立活動に特化したアセスメントシートであり、これまでにない」、「このアセスメントシートが、高校における通級指導対象生徒の指標となる」といった評価をいただいた。自動化した点についても「便利である」との評価をいただいた。

○指導内容に関する評価

集団生活に困難さを感じていたため､コミュニケーションを中心に指導を実施した。通級指導開始当初と半年後に実施したアンケートでは、長所や短所といった自己理解に関する内容に変化があり、自己肯定感の高まりが確認できた。

協議会では、指導内容が適切であったとの評価をいただいた。

５　研究開発の成果

（１）実施による効果

前述の通り、全教職員が広く活用する「教職員の気づきシート」と、通級指導担当者が活用する「行動観察シート」を開発した。２種類のシートの作成を通じて、支援教育の観点を養うことにもつながっている。

対象とした生徒への指導内容は、前述の２種類のシートを基にするとともに、協議会委員による授業観察からの見立てを反映し、対象生徒の特性に応じた課題設定を行なった。指導の結果、通級指導開始時には低かった自己肯定感は、半年後には高まり、クラス内では、グループワークで進行役を務めるなど、通級指導の成果をクラスの中で発揮することができた。

（２）実施上の問題点と今後の課題

おおむね、予定通りに実施できた。次年度も、通級生徒のアセスメントや指導内容の決定の流れは同様に進める予定である。

通級指導が、原則として個別指導であるが、コミュニケーション力の向上を目的とした指導を実施する場合には、生徒と教師間でのやり取りのみとなってしまうことに課題を感じた。通級指導の授業内容の幅を広げ、他の生徒とのコミュニケーション実践の機会を増やしたい。

（３）次年度に向けた準備状況

次年度は、今年度の流れを踏襲し実施するが、１年生を対象とする通級指導を初めて実施することとなる。今年度、２時間連続で実施していたものを、１時間に分割し実施することとなるため、内容の整備が必要となる。

また、新入生を対象とするためには、入学者選抜の合格者が決定した後に開催する、合格者説明会にて通級指導教室について周知し､希望者は申し出ていただくこととなる。その後、本人・保護者と面談をし、通級の目的と指導内容、校内支援体制、３年間の高校生活の計画、卒業後を見通したプランなど、３年間の高校生活を見据えた、丁寧な説明に努めたい。

さらに、必要に応じて２年生と３年生が同時に学ぶ授業や、ＴＴでの指導に取り組む予定であり、指導内容や授業の進め方等について研究を進める。